

研究主題

人権教育に関する研究

—生命尊重の視点に立った全教育活動を通しての人権教育の工夫—

研究の背景とねらい

現状と課題

東京都教育委員会では、教育目標及び基本方針1を踏まえ、児童・生徒等の人権尊重の理念を正しく理解させ、同和問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と認識を深めさせるとともに、自他を尊重する心情や態度をはぐくみ、自らの問題として偏見や差別の解消に努めることのできる能力や態度の育成を図るために、人権教育を推進している。しかし、生命尊重に関する指導内容や方法が十分確立しておらず、生命尊重の態度を育成するための全教育活動を通しての人権教育の推進が課題となっている。

※児童・生徒等とは、幼児、児童、生徒、高等専門学校の学生をいう。

施策・提言

- 東京都人権施策推進指針
- 東京都教育委員会の基本方針1
- 生命尊重の視点に立った生活指導の徹底について（通知）
- 人権教育プログラム（学校教育編）

ねらい

- 学校における全教育活動を通して、児童・生徒等に、「生命を尊重する態度を育成するための視点」を明らかにする。
- 児童・生徒等に、「生命を尊重する態度を育成するための視点」に基づいた有効な指導事例について整理し、具体的に提示する。

人権尊重の理念

自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること

〔人権教育の指導方法等の在り方について(第一次とりまとめ) 平成16年6月より〕

育てたい児童・生徒等の姿

かけがえのない自他の生命を尊重し、共によりよく生きる児童・生徒等

生命の大切さの理解

生命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を尊重する態度を育成する。

共に生きる心の育成

互いを尊重し、支え合いながら、共によりよく生きようとする態度を育成する。

生命を尊重する態度を育成するための視点

規範意識の形成

義務や責任について理解し、正しい判断のもとに行動しようとする態度を育成する。

偏見・差別意識の解消

同和問題をはじめ様々な人権課題について正しい理解と認識を深め、あらゆる偏見や差別をなくそうとする態度を育成する。

生命を尊重する態度を育成するための視点と指導事例

◎については次ページ以降に指導事例を紹介している。 ■については「人権教育プログラム（学校教育編）」に掲載している。

	幼稚園	小学校(前期1～3年、後期4～6年)	中学校	高等学校・高等専門学校
発達段階 視点	人間を信頼し、尊重する心情を培い、互いに認め合おうとする態度の育成を図る。	偏見や差別の不合理性に気付かせるとともに、同和問題をはじめ様々な人権課題について正しい理解と認識を深めさせ、自他を尊重する心情や態度の育成を図る。	同和問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と認識を深めさせ、自らの課題として偏見や差別の解消に努めることができる能力や態度の育成を図る。	同和問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と認識を一層深めさせ、偏見や差別のない社会を実現しようとする能力や態度の育成を図る。
生命の大切さの理解	教師と共に身近な動植物に親しみをもって接することを通し、生命の尊さに気付かせ、生命を大切に育てる。 ◎身近な動植物とのかかわり ○植物や野菜の栽培	前期では自然や動植物など直接触れ合うことを通して優しい心を養うことが求められる。後期では自然の偉大さを理解させ、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する心を育てる。 ◎道徳：生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する態度を育てる。 ○生活科・理科：飼育栽培活動	自他の生命を尊重する態度を身に付けさせるとともに、命の尊厳に気付かせ、命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導する。 ◎■道徳：「いじめ問題の解決に向けていじめは重大な人権問題であることを理解するとともに、互いを個人として尊重し、大切に育てる。(平成16年)	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念などについて倫理的な見方・考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。 ◎保健：「現代社会と健康」 応急手当の意義について学び、自他の生命を尊ぶ態度を育てる。
共に生きる心の育成	友達や先生など家族以外の人間関係ははぐくまれ、自分と他者の違いに気付き始める時期である。高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深い人に親しみをもちたせるようにする。 ◎高齢者とかかわりがもてるような行事や活動 ○友達とかかわりの中で、思いを伝えたり、相手の思いに気付かせたりする活動	前期では身近にいる幼児や高齢者に目を向け、だれに対しても温かい心で接し親切にすることの大切さを指導する。後期にはだれに対しても、相手の立場に立って心のこもった接し方ができるようするとともに、異性に対しても正しい理解に配慮する。 ◎生活科：自分の成長を振り返り自他のかかわりに気付かせるとともに、これからの生活への意欲をもたせる。	社会福祉施設でのボランティア活動に取り組みなどよりよい社会の実現を求める気持ちが強くなっていく時期である。だれに対しても公正、公平に努めるよう指導する。 ◎社会科：「多文化社会に生きる」 ■総合的な学習の時間：『外国人』について正しい理解と認識を深め、異なる習慣・文化を尊重する態度を育てる。(平成17年)	同和問題をはじめ、様々な人権課題について正しい理解と認識を深めさせ、主体的に判断、行動し積極的に自己を生かしていけるよう指導の充実を図る。 ◎奉仕：社会に奉仕することの意義を学び、社会に貢献できる資質と態度をはぐくむ。
規範意識の形成	基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、他者とかかわり合いの中でやってよいことと悪いことを区別ができるように指導したりきまりの大切さに気付かせたりする。 ◎いろいろな遊びの中からルールの大切さに気付かせる。	前期には身近な出来事を通して、きまりを守る態度を育て、後期には公德心や社会規範、法やきまりを守り権利と義務を大切に育てる精神を身に付けさせる。 ◎「言葉遣いについて考える月間」を設定し、言語環境を整える。	自分たちの生活や権利を守るため、法やきまりを遵守することの大切さについて自覚を促し、社会の秩序と規律を自ら高めようとする意欲を育てよう指導する。 ◎■社会科：人権尊重について考えさせる。(平成17年)	基本的人権の保障について理解を深めさせ、法と規範などを考えさせ、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。 ◎特別活動：健全育成にかかる都立高等学校特別講演会支援プログラム
偏見・差別意識の解消	日常においては人を傷つけてはいけないことを理解させる。だれに対しても、思いやりの心をもって行動しようとする態度を育てる。 ◎みんなと一緒に活動したいと思っている障害のある幼児の気持ちに気付かせる。 ○障害者への思いやりの気持ちを育てる手話教室やバリアフリー読書会などの体験活動	身近な偏見や差別に気付かせ、公平で公正な態度を養うことを通して社会正義の自覚を深めさせる。前期では家庭や学校を取り巻く郷土に目を向けさせ、後期には国際理解と親善の心をもてるよう指導する。 ◎■総合的な学習の時間：ハンセン病の患者・回復者に対する偏見や差別の不合理性に気付かせるとともに、多くの人々が、偏見や差別の解消に努力してきたことを理解させる。(平成17年) ○道徳：お互いの違いを認め合い、仲よく生活することの大切さに気付かせる。	同和問題をはじめ様々な人権課題の歴史的・社会的背景について正しい認識を深めさせ、正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、偏見や差別の解消に努める態度を育てる。 ◎■道徳：路上生活者に対する正しい理解と認識を深めさせ、偏見・差別の解消に努める態度を育てる。(平成16年)	同和問題をはじめ様々な人権課題について正しい理解と認識をより一層深めさせ、偏見や差別のない社会を実現しようとする能力や態度を育てる。 ◎特別活動：女性に対する差別を始め、就職差別には様々な実態があることを理解し、就職の機会均等の保障と同和問題について理解する。 ■現代文：資料「原始女性は太陽であった」筆者の主張を読み取り、社会的背景について広く調べる学習を通して「男女平等参画社会」の実現に向けて考えさせる。(平成15年)

盲・ろう・養護学校及び小・中学校心身障害学級

児童・生徒等の障害の状態及び発達段階や特性等並びに地域や学校の実態を十分考慮して、児童・生徒等に「生きる力」と生命を尊重する態度を育成するよう、全教育活動を通して人権教育を推進する。

生命の大切さの理解

動植物等の自然との触れ合いを通して、生や死を見つめさせたり、生まれてきたことや生きていくことの意義について考えさせたりすることによって、生命の尊さや生きることへの自覚を深め、自他の生命を尊重できるようにする。

「身近な動植物とのかかわり」【幼稚園】

人権教育の視点

身近な小動物や植物とのかかわりを通じて、その性質や特徴などに気付くとともに、命あるものの不思議さや大切さを感じ取る。

活動事例

- ・小動物と一緒に遊んだり、えさを与えたりすることを通して、生き物への温かい感情の芽生えを引き出す。
- ・植物を育てることを通して、親しみや愛着をもつ。
- ・野菜の栽培を行い、収穫を喜び合う。



参考ビデオ教材
「どんぐり森へ
～ひとりにひとつのたからもの～」
(株式会社ファティモ)

生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する道徳の授業

主題名 かけがえのない生命 高学年3-(2)生命尊重

【小学校 道徳 高学年】

人権教育の視点

生命がかけがえのないものであることに気付かせるとともに、自分の生命が多くの人によって大切にされていることを理解させ、自分も他の人の生命を大切にしていこうとする心情を育てる。

参考資料

「たったひとつのたからもの」
加藤浩美著 (文藝春秋社)

〈一単位時間の指導計画〉

導 入	○資料を読むことを通して生命がかけがえのないものであることに気付く。
展 開	○資料を読み、生命には限りがあることについても理解する。 ・これから生きていく上で大切にすることを考える。 ・自分の生命が、多くの人によって守られてきたことに気付く。
ま と め	○本時を振り返り、自他の生命を尊重することの大切さを再認識する。

児童の感想

- ・生きているのが当たり前感じていた。学習を通し、生きたくても生きられない人がいることも知った。時間を大切にしたい。
- ・自分を生んでくれたこと、育ててくれたことを家族に感謝したい。今後は自分が人のためにできることを考えていきたい。



「いじめ問題の解決に向けて」

～傍観者でいいのか～ 【中学校 道徳】

人権教育の視点

いじめは人間の尊厳を奪う重大な人権問題である。いじめ問題の解決にはいじめられている側の心情を理解し、共感できることが必要である。自己中心的な考えから脱却し、互いを個人として尊重する態度を育成する。

学習活動

- ・いじめは重大な人権問題であることを理解する。
- ・いじめられる側に立っていじめの問題を考える。
- ・傍観的態度を克服し、誰もが個人として尊重され、大切にされる学級・学校を実現しようとする。

参考資料 人権教育プログラム(学校教育編)平成16年3月

「現代社会と健康」

～応急手当の意義について～

【高等学校 保健】

人権教育の視点

応急手当の意義について学び、自他の生命を尊重する態度を育てる。

学習活動

自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境を作るために、一人一人が応急手当の手順や方法を身に付ける。

共に生きる心の育成

高齢者や障害者等、様々な地域の方々とのかかわりを通して、思いやりの心を持ち、互いに尊重し、共に豊かな社会を築いていこうと意欲的に行動することができるようにする。

自己肯定感や自信をもち希望をもって生活する力を育てる学習 (8)自分の成長

【小学校 生活科 第2学年】

〈単元の指導計画〉

人権教育の視点

自分のよさや成長、自分を支えてくれる人たちの存在に気づき、自他を尊重する心情や態度をはぐくみ、これからの生活に意欲をもたせる。

児童の感想

- ・自分のよいところがわかってよかった。
- ・だれもがよいところがあるということがわかった。



第一次	<p>○自分たんけんを始めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことや大きくなったことについて保護者、専科教諭、養護教諭、主事等にインタビューをすることを通して、自分の成長に関心をもつ。 <p>【質問例】・入学したばかりの頃の自分は、どんな様子だったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年前の自分と比べて、成長したところはどこか。
第二次	<p>○自分たんけんをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たんけんの計画を立て、自分のこれまでの成長について調べ、自分の成長にかかわってくれた多くの人々について認識を深める。 <p>【調べさせることの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったこと、得意なこと、大きくなる様子、小さい頃の様子、病気をしたこと 等 ・作品にまとめ、紹介し合う。
第三次	<p>○自分の成長をふりかえろう</p> <p>～成長を支えてくれた人に感謝の気持ちを伝える会を開こう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々の支えにより自分が成長してきたことに気づき、感謝の気持ちを伝えるとともに、これからの生活に対する意欲を引き出す。

社会に奉仕することの意義を学び、社会に貢献できる資質と態度をはぐくむ

【高等学校 奉仕体験活動】

〈単元の指導計画〉

人権教育の視点

奉仕に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、活動の理念と意義を理解させるとともに、社会の求めに応じて活動し、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して、将来、社会に貢献できる資質を育成する。

参考ビデオ教材

- 「高校生のボランティア学習マニュアル」
(日本青年奉仕協会)
- 「地域に生きるボランティア」
(東映株式会社)

事前学習	<p>○障害者理解にかかわる事前指導を通して人権課題「障害者」に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ視聴 ・講演会 ・調べ学習
体験活動	<p>○体験的な学習を通して障害について正しい理解と認識を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスク体験 ・車イス体験 ・点字体験 ・手話体験 <p>○障害者福祉施設等において奉仕体験活動を行い、障害者と共に生きる社会の実現について考える。</p>
事後学習	<p>○障害者とかかわる事後指導を通し、奉仕体験の実践のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験発表会 ・礼状作成 <p>○障害者への自発的な支援・奉仕活動を通し、社会に貢献しようとする意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の実施 ・障害者スポーツの運営補助

「高齢者とかかわり」

【幼稚園】

人権教育の視点

地域の高齢者との交流を通して、高齢者とかかわることの楽しさを味わい、親しみをもつ。

活動事例

- ・高齢者施設を訪問して高齢者の方と話す。
- ・昔あそびを教えてもらい交流する。
- ・幼稚園のお楽しみ会に招待する。 等



- 参考ビデオ教材
「ぼくがおじいちゃん、おじいちゃんがぼく」
(株式会社学習研究社)

「多文化社会に生きる」

【中学校 社会科 第3学年】

人権教育の視点

国際社会の中で、異文化を尊重し、異なる習慣・文化をもった人々と共に生きていこうとする態度を育てる。

学習内容

- ・多文化社会に生きる
- ・日本と国際社会の結び付き 等

参考ビデオ教材

- 「ソーテサワサワ」
～人間の価値はみな同じ～
(信越放送株式会社)
- 「この街で暮らしたい」
～外国人の人権を考える～
(法務局人権擁護局(財))

規範意識の形成

基本的な生活習慣やマナーを身に付けさせ、社会の一員であることの自覚を深めさせることにより、正義や公正を重んじ、正しい判断の基に行動できるようにする。

社会の一員としての自覚を深める学習

「現代の民主政治とこれからの社会」 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

【中学校 社会科】

〈単元の指導計画〉

人権教育の視点

人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせるとともに、法の意義に着目させ、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させる。

第一次	<ul style="list-style-type: none"> ○人類が、基本的人権を獲得してきた過程について理解する。 ○自由権と平等権の内容と意義を理解する。 ○現実の社会には、様々な差別が存在することに気付かせ、基本的人権を尊重することの意義を考える。
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ○社会権の意義に気付くとともに、日本国憲法における社会権の考え方の理解を深める。 ○基本的人権を保障する様々な権利について考察する。 ○日本国民の義務について、その内容を深める。 ○公共の福祉についての考え方を深める。 ○様々な人権課題について調べ、その問題点をまとめる。
第三次	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的人権を尊重することの大切さについて認識を深めるとともに、これからの社会の在り方を考える。

健全育成にかかる都立高等学校特別講演会支援プログラム

「人の生命を奪うことは絶対に許されないこと」について啓発を図るための特別講義

【高等学校 特別活動】

〈一単位時間の指導計画〉

人権教育の視点

正義感や公正さを重んじる心などの大切さについて理解させ、生徒の規範意識を高めて、社会生活の基本的なルールを身に付け、正しい判断の基に行動できる能力や態度を育成する。

非行防止・犯罪被害防止教育推進指導資料第2集－実践編－より

参考ビデオ教材
「考えよう命の大切さ」
(日本広報協会)

導入	<p>(事前指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人の生命について考えたことを作文に書くことを通して、生命の大切さについて考える。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○犯罪被害者の家族の話(ビデオ視聴)、犯罪被害者の悲しみや、加害者に対する思い、憤りなどを話し合う。 ○犯罪被害者本人の立場になって、人の生命を奪ってしまう行為とは、どのようなことなのか話し合う。 ○犯罪を犯してしまうと、どのような罪に問われ、社会的責任を負うのか事例を通して学ぶ。 ○自分がもし、カッとなくなってしまったら、どうすればよいのかロールプレイングを通して考える。
まとめ	<p>(事後指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間性にあふれた質の高い生活を送れる社会を実現するために、社会で行われているボランティア活動について追究し、自分たちができるボランティア活動は何か考え、実践できることを考える。

「友達とのかかわりを通して」

【幼稚園】

人権教育の視点

集団生活や友達との遊びを通して、楽しく生活するためには様々なきまりが大切であることに気付かせるとともに、葛藤やつまずきも体験させ自己を抑制する力を身に付けさせる。

活動事例

- 友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付かせ、それを守ろうとする態度を身に付けさせる。
- 地域の人や友達とのかかわりの中でよいことや悪いことがあることに気付かせ、考えながら行動する気持ちを育てる。

参考ビデオ教材 「きまりのないくに」
(株式会社学習研究社)

「言葉遣いについて考える月間」の設定

【小学校 全学年】

人権教育の視点

正しい言語環境の整備を行うことで、基本的な生活習慣を確立し、コミュニケーション能力を育てる。

活動事例

- 「相手の名前を大切に呼ぼう」
相手を大切にする名前の呼び方を考え、互いを尊重する心を育てる。
- 「はい」「です。ます。」月間
名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。話すときには、語尾に「～です。ます。」をつけて丁寧に話す。
- 「あいさつ運動」
全校であいさつ運動に取り組み、あいさつの大切さを理解するとともに、すすんであいさつをしようとする気持ちを育てる。



偏見・差別意識の解消

様々な人権課題について正しく理解し、相手の立場に立って考えさせるとともに、他の人を正しく理解し、偏見や差別意識の解消に努め、人権を尊重する態度を身に付けることができるようにする。

学習したことを伝え合い、互いにその成果を確かめ合うとともに、人権尊重の態度を育てる

「全生園から学んだことを伝えよう」

【小学校 第6学年 総合的な学習の時間】

人権教育の視点

全生園の歴史、過去の人権問題について学んだことから、世の中に残る偏見・差別をなくすために、自分たちができることは何かについて考える。ハンセン病回復者の方々と交流して考えたことを人に伝える活動を通して、偏見・差別意識の解消に向けた実践的態度を育てる。



ハンセン病への差別が起きた原因は、一つではないと分かりました。

考えたことをたくさんの人に伝えることで、まだ残っている差別をなくしたいです。

〈単元の指導計画〉

第一次	○全生園の歴史を調べることを通して、ハンセン病に対する偏見に気付く。
第二次	○療養所入所者の手記等を読み、隔離されたハンセン病患者・回復者の気持ちを考える。 ○調べ学習を通して、ハンセン病患者・回復者への偏見や差別意識の解消に向けてどのような取組みが行われてきているかについて理解する。 ・ハンセン病に関する主な出来事について ・高松宮記念ハンセン病資料館について ・現在の国や地方公共団体の取組みについて ○各グループで調べた内容を発表し、理解を深める。
第三次	○偏見や差別をなくし、基本的人権を尊重するためにできることを話し合い、自分自身の考えをまとめる。

参考ビデオ教材

「ハンセン病・剥奪された人権」(東映株式会社)

相手の立場を理解する心情と偏見や差別をなくすために努力しようとする心情を育てる道徳の時間

「偏見や差別のない社会を目指して」

4-(4)公正・公平

【中学校 第2学年 道徳】

人権教育の視点

路上生活者の問題について認識を深めさせるとともに、路上生活者に対する差別的な行為が、いかに相手の人格を傷つけているかに気づき、相手の立場を理解する心情と、偏見や差別をなくすために努力しようとする態度を育てる。

参考資料

人権教育プログラム(学校教育編)
平成16年3月

参考ビデオ教材 「あしがらさん」
(あしがらさん上映ネットワーク)

〈一単位時間の指導計画〉

導	○偏見や思い込みについて考える。	路上生活者に対する問題意識をもたせるために、資料を読む際に、自分がその場に居合わせることを想定させる。生徒が、だれに対しても、公平にし、偏見や差別意識を解消していく心情が高まるようにさせる。
入	○路上生活者に対し、自分が偏った見方をしたり、決め付けた見方をしたりしていないかを振り返る。	
展	○資料を読み、路上生活者に対する暴力行為について考える。 ○路上生活者の気持ちやその時の自分の行動について考え、話し合う。	
開	○資料を読み、路上生活者に対する偏見や差別意識について考える。	
まとめ	○他の人に対する偏見や差別がないか振り返り、まとめる。 ○素直に自分の心と向き合うようにする。	

「あの子がいると負けちゃうよね。」

障害のある友達とのかかわりを通して 【幼稚園】

人権教育の視点

障害のある幼児とのかかわりを通して、仲間として気持ちが通じあう体験をさせることで、幼児が互いの違いに気づき、相手を尊重する心や思いやりの心を育てる。

活動事例

- ・ルールを工夫し、みんなが楽しく遊べるようにするにはどうしたらよいかを考えさせる。
- ・保護者に、共に育ち合うことの大切さを伝える。

参考ビデオ教材 「いじめっ子ザルと正直力二さん」
(アニメーション画房わ組)

「身近な差別に気づき、人権意識を高めるホームルーム活動」

【高等学校 特別活動】

人権教育の視点

女性に対する差別を始め、就職差別には様々な実態があることを理解するとともに、就職の機会均等の保障と同和問題について理解する。

学習活動

- ・就職にかかわる偏見・差別について考える。
- ・履歴書(全国高等学校統一用紙)の新旧の様式を比較し、就職や採用について考える。
- ・偏見や差別の問題を自己の生き方とかかわらせ考える。

◎イラストは東京都生活文化局「心の東京革命行動プラン」より引用

【参考ビデオ教材】指導事例に掲載したビデオ教材は、併用すると効果的であり、**人権教育資料センター**にて貸出を行っている。

◇問い合わせ先◇03-5802-0306(東京都教職員研修センター 研修部 教育開発課内)